

## 情報発信がないのも情報である

世の中にはとにかく情報があふれています。テレビ、ラジオ、新聞、インターネット、携帯電話、メールにチャット、ブログにプロフに掲示板、うわさにデマに怪文書。

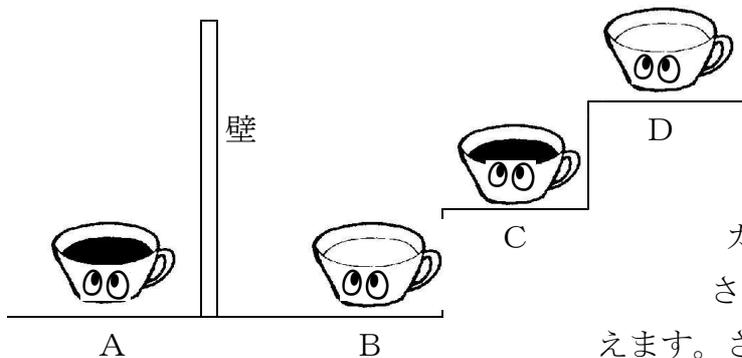
「□□の走りうそ」といういやな言葉がありますが、それだったらテレビや新聞に報道されていることはすべて真実かといえ、これも怪しい部分があります。

たとえば昨晚のナイターの結果を読売新聞は「対中日戦、2対3で惜敗」と書けば、中日新聞は「対巨人戦、3対2で勝利をもぎとる」と書くかも知れません。結果については確かに両紙とも正しいわけですが、真実とは別な要素が見え隠れするのです。スポンサーのある報道は当然のことです。

さて本論です。子どもが発する情報を考えてみましょう。保護者の方から「どうもうちの子がいじめにあっているような気がするので、注意して観てほしい」という訴えがあります。詳しく聞けば、「子どもは何も言わないのだけれど…様子を変だ」、「あんなに明るかったのに話さなくなった」とか、「自分もそうだったからわかる」というものもあります。

この親の気持ちは私にも十分わかります。子どもの方から親や先生に「私はいじめられている」と明確に訴える(情報発信する)場合はほとんどありません。子どもが『H e l p !』(助けて)の情報は発しません。しかし、発しないことが情報なのです。回りくどい言い方で申し訳ありません。子どもが極端に無口になったら(情報発信をやめたら)赤信号と思って相談してください。もちろん、学校はそれ以前に発しない情報をキャッチすることに最善をつくします。

突然ですがクイズです。



コーヒーカップが4つあります。Aさんは壁の外、B、C、Dさんは階段にいます。それぞれ自分のカップの中は分かりませんがCさんとDさんは自分より下にあるカップの中は見えます。さて、紅茶とミルクが2つずつであることを知らせた時、最初に自分の中身が「わかった」と手をあげるカップは誰でしょう。

まず、Aさんは壁の外ですから、情報が全くありません。Bさんは階段の最下段ですのでAさん同様情報がありません。CさんはBさんがミルクだということはわかりますが、それ以上の情報はありません。DさんはB、Cさんがそれぞれちがうことはわかりますが、Aさんが見えないので自分は何かわかりません。そこで…Cさんは再度考えます。Dさんが**だまっている**ということは自分はミルクではないことがわかります。 意味わかるかな